阿賀野川えーとこだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム → あがのがわ環境学習ツアー & ツアー&ネットショップ 阿賀の宝ものがたり　新潟県

第33号
2021.10.11

阿賀野川 え〜とこだより

aganogawa E-toko dayori

「ドローンから撮影した、上流の山地から下流の平野へと抜け出る阿賀野川」場所:阿賀町石間／佐藤安男氏撮影

もくじ

特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2021
阿賀野川オンラインツアー2日間 開催! ―― 2
・イザベラ・バードとドローンが眺めた阿賀野川の歴史・文化・自然・現在、そして光と影
特集2 阿賀の宝もん★発掘レポート(第8回) ―― 4
・道の駅「阿賀の里」とイザベラ・バード
特集3 令和3年度パネル巡回展 ―― 6
阿賀野川流域 水との闘い・水の恵み
インフォメーション ―― 8

地域再生の取組のデジタル化を加速する機会に

阿賀野川流域の新しい側面をオンラインを通じて再発見するために

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄され、今年度の前半も深刻な流行が続きました。ワクチンの接種が進む中で、9月に入ってようやく感染状況も落ち着くきざしを見せ始めていますが、今後も予断が許されない状況は続くと思われ、私たちの暮らしへの影響は多かれ少なかれ避けられない模様です。

FM事業(※1)でも、年間に複数回開催していたイベントについて、今年度は対面式の座学やバスツアーを実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、ネットを介したオンライン開催へ変更することを決断しました。FM事業としても新しい試みとなりますが、昨年度から注力してきた「地域再生の取組のデジタル化」の一環になります。

今回のオンライン配信では、超小型の高性能カメラを備えたジンバル(※2)やドローンを活用して、イザベラ・バードや鳥の目線となって、阿賀野川を上流から下流までくだる中で、流域の光と影を共に学んでいきたいと考えています。オンライン開催ならではの企画のイベントとなりますので、この機会にぜひご参加ください!

※1「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。　※2動画を撮影するカメラの手ぶれを画期的に補正する機器

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

▲▼第22回表彰式(写真提供:新潟水俣病共闘会議)

第23回 新潟水俣環境賞作文コンクールの作品を募集します!

県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

募集 2021年10月1日〜2022年3月31日
発表 2022年6月

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたことや体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然(森林・川・湖沼・海と環境問題)」「総合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこと、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1・2年生は600字〜800字、小学校3・4年生は800字〜1000字、小学校5・6年生は1000字〜1200字、中学校1・2・3年生は1200字〜1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。

お問合せ先●新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466／FAX025-281-8101
(作文の送付先●〒950-0965 新潟市中央区新光町6-2　勤労福祉会館3階　新潟水俣病被害者の会)

第22回 受賞作品発表

第22回作文コンクールの授賞式が開催されました!

このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。

優秀賞受賞者と作品テーマ

◆小学校3・4年生の部

「自然のおくりもの」
松本護也さん
(新潟市立亀田東小学校4年)

◆小学校5・6年生の部

「次は僕たちが後世へ語り継ぐ番」
勝見ゆずなさん
(新発田市立外ケ輪小学校5年)

「日本人の責務」
鷲尾礼子さん
(新発田市立猿橋小学校5年)

◆中学校の部

「二律背反」
阿部由佳さん
(新潟明訓中学校2年)

「現在のわたしたちに必要なもの」
安田梨乃さん
(新潟明訓中学校2年)

※作文の全文は、「阿賀野川え〜とこだ!流域通信」に掲載してありますので、ぜひご覧ください!

主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会　後援:新潟県・新潟県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、ほか

「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え〜とこだ!憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第33号はいかがでしたでしょうか?

今年も昨年と同様に、新型コロナウイルスの流行が続いているため、今年度はFM事業のツアーやイベントをオンラインで開催します。新しい試みとなりますので、ご都合がよろしい方はお気軽にご参加いただけますと幸いです☆

3月発行予定の次号もご期待ください!

今号表紙の写真「上流から下流へ」

阿賀野川が、上流の山々から下流の平野へと、蛇行しながら抜け出る地点を、ドローンから撮影した一枚。写真左に広がる集落は五泉市の咲花温泉街で、そのすぐ先に下流の平野に用水を提供する阿賀野川頭首工も見える。

阿賀野川え〜とこだより 第33号
発行:新潟県(※環境省補助事業)　発行日:2021年10月11日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え〜とこだ!流域通信
https://aganogawa.info/
え〜とこだよりのバックナンバーも見れます!